

県内経済は、生産活動で持ち直しの動きが続いているが、雇用情勢は引き続き厳しい状況にあり、個人消費も一部に明るい動きはみられるものの総じて低調に推移するなど、厳しい状況が続いている。

1. 平成21年10月の県内経済

消費動向をみると、大型小売店販売額（全店舗ベース）は、衣料品、飲食料品、身の回り品など軒並み低調に推移し、5ヵ月連続で前年を下回った。乗用車新車販売は、補助金や減税の効果から中小型乗用車が前年を上回り、合計では3ヵ月連続で前年を上回った。生産活動は、前年水準を下回ってはいるものの、持ち直し基調で推移している。投資動向をみると、公共工事前払保証取扱は、件数、請負金額とも前年を上回った。建築着工（民間・非居住用）は、棟数、床面積、工事費予定額とも前年を下回った。新設住宅着工戸数は、持家、貸家が前年を下回り、合計では2ヵ月連続で前年を下回った。倒産状況は、負債金額100万円以上の倒産件数および負債総額は、前年を下回った。雇用情勢は、新規求人倍率、有効求人倍率（原指数）とも、24ヵ月連続で前年を下回るなど厳しい状況が続いている。

〔消費動向・一部に明るい動き〕

大型小売店販売額（全店舗ベース）は、雇用・所得環境が厳しさを増す中で、衣料品を始め飲食料品や身の回り品など軒並み低調に推移し、全店舗ベースで179億12百万円（前年同月比△3.5%）と5ヵ月連続で前年を下回った。乗用車新車販売は、大型乗用車、軽乗用車が依然低迷しているものの、中小型乗用車が補助金や減税の効果から前年を上回り、合計では3ヵ月連続で前年を上回った。消費者物価指数は、前月比0.6%[※]下降し、3ヵ月ぶりに前月を下回った。また前年同月比では2.5%[※]下降し、9ヵ月連続で前年を下回った。個別企業の販売動向をみると、家電量販店は、エコポイント効果から薄型テレビ、冷蔵庫が好調に推移し、パソコン、デジカメ、エアコンなどが振るわなかったものの、合計では前年をやや上回り推移した。ホームセンターは、日用品、園芸植物、カー・レジャー用品、木材塗料、ペット関連などが堅調、前年をやや上回り推移した。旅行取扱額は、国内・海外の個人ならびに団体とも、景気低迷やシルバーウィーク反動の影響などから、前年を大きく下回り推移した。

〔投資動向・減少基調〕

10月の公共工事前払保証取扱は、件数は8ヵ月連続で前年を上回り、請負金額は2ヵ月連続で前年を上回った。9月の建築着工（民間・非居住用）は、棟数、床面積、工事費予定額ともそれぞれ前年を下回った。10月の新設住宅着工戸数は、持家、貸家が2ヵ月連続で前年を下回り、合計でも2ヵ月連続で前年を下回った。

〔生産活動・持ち直しの動き〕

9月の鉱工業生産指数（季節調整済指数）は、生産の持ち直し基調が続く中、83.8（前月比+4.0%）と2ヵ月ぶりに前月を上回った。原指数では88.1（前年同月比△17.6%）となり、14ヵ月連続で前年を下回った。10月の大口電力販売量は、12ヵ月連続で前年を下回っているが、非鉄金属や化学では、ほぼ前年水準に近づきつつあるなど、総じて3月以降着実に改善基調で推移している。

〔企業倒産・減少基調〕

負債金額100万円以上の企業倒産状況は、倒産件数が3ヵ月連続で前年を下回り、負債総額も2ヵ月連続で前年を下回った。また、福島県信用保証協会の代位弁済状況は、件数、金額とも4ヵ月連続で前年を下回った。

〔金融動向・増加〕

10月末の預金残高は前年同月比+3.0%と32ヵ月連続で前年を上回った。貸出金残高も同+1.1%と16ヵ月連続で前年を上回った。

〔雇用動向・悪化〕

新規求人倍率、有効求人倍率（原数値）は、24ヵ月連続で前年を下回った。また、季節調整値でみた新規求人倍率は、0.64倍（前月比△0.03%[※]）となった。有効求人倍率は0.33倍（同±0%[※]）と過去最低水準で推移しており、県内雇用情勢は厳しい状況が続いている。

県内経済動向の概要

	項目	前年同月比			前月比		
		8月	9月	10月	8月	9月	10月
消費動向	大型小売店販売額（全店舗）	↗	→	↘	↗	↘	↗
	乗用車新車登録台数	↗	↗	↗	↗	↗	↗
	消費者物価指数（総合）	↗	↗	↗	↗	↗	↗
投資動向	公共工事前払保証取扱保証請負金額	↗	↗	↗	↗	↗	↗
	建設着工棟数（民間・非居住用）	↗	↗	—	↗	↗	—
	新設住宅着工戸数	↗	↗	↘	↗	↗	↗
生産活動	鉱工業生産指数（総合）注1	↗	↗	—	↗	↗	—
	大口電力販売量	↗	↗	↗	↗	↗	↗
企業倒産	企業倒産件数注2	↗	↗	↗	↗	↗	↗
	企業倒産金額注2	↗	↗	↗	↗	↗	↗
金融動向	預金	↗	↗	↗	↗	↗	↗
	貸出金	↗	↗	↗	↗	↗	↗
雇用動向	有効求人倍率（パート含む）注3	↗	↗	↗	↗	↗	↗
	新規求人倍率（パート含む）注3	↗	↗	↗	↗	↗	↗

良化 ↗ 良化傾向にあるがほぼ横這い ⇨ 悪化傾向にあるがほぼ横這い ⇨ 悪化 ↘

注1：前月比は季節調整値、前年同月比は原指数。注2：負債総額10百万円以上。注3：前月比は季節調整値。前年同月比は原指数。

2. 県内経済動向

消費動向

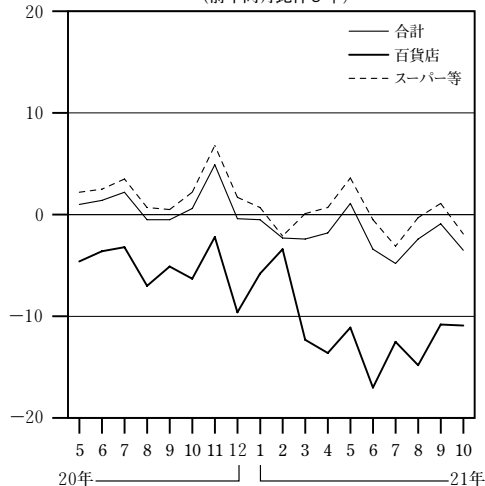
大型小売店 10月の県内大型小売店の販売額は、雇用・所得環境が厳しさを増す中で、秋・冬物衣料が振るわなかったことに加え、飲食料品や身の回り品なども低調に推移し、全店舗ベースで179億12百万円（前年同月比△3.5%）と5ヵ月連続で前年を下回った。一方、既存店ベースでも同7.1%減と11ヵ月連続で前年を下回った。（注：既存店とは調査月において当月と前年同月でともに存在した事業所の数値。）

業態別に内訳をみると百貨店は、衣料品が主力の婦人服をはじめ全般的に振るわなかったほか、身の回り品、飲食料品も前年を大きく割り込み、全店舗ベースで29億51百万円（同△10.9%）と、既存店ベース（同△7.4%）とともに26ヵ月連続で前年を下回った。

スーパーは、節約志向が高まる中で、主力の飲食料品の売上が前年を下回ったほか、衣料品や身の回り品、家庭用品も低調に推移し、全店舗ベースで149億61百万円（同△1.9%）と2ヵ月ぶりに前年を下回った。一方、既存店ベースでも同7.0%減と、5ヵ月連続で前年を下回った。

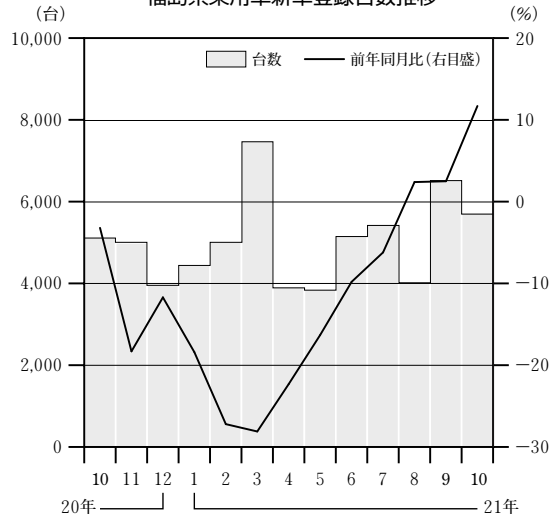
乗用車販売 10月の乗用車新車登録台数（軽乗用車含）は、合計で5,764台（前年同月比+11.7%）となり、減税や補助金効果により3ヵ月連続で前年

福島県大型小売店販売額（全店舗）
（前年同月比伸び率）



（資料：経済産業省）

福島県乗用車新車登録台数推移



（資料：福島県自動車販売店協会）

を上回った。車種別でみると、大型乗用車は530台（同△18.1%）と15ヵ月連続で前年を下回った。中小型乗用車は3,500台（同+36.6%）と3ヵ月連続で前年を上回った。軽乗用車は1,734台（同△11.2%）と11ヵ月連続で前年を下回った。特に、中小型車の一部（1501～2000cc）で、5月以降6ヵ月連続で前年を上回るなど好調に推移している。

10月の乗用車中古車販売台数（軽自動車は名義変更を含む）は、合計で8,909台（前年同月比△15.4%）と13ヵ月連続で前年を下回った。車種別にみると大型乗用車は2,542台（同△17.8%）と、9ヵ月連続で前年を下回った。また、中小型乗用車は3,420台（同△13.8%）、軽乗用車は2,947台（同△15.0%）で、いずれも13ヵ月連続で前年を下回った。

消費者物価指数 10月の消費者物価指数は、総合指数（福島市、平成17年=100）でみると、100.7（前月比△0.6%）となり、3ヵ月ぶりに前月を下回った。前年同月比では2.5%下がり、9ヵ月連続で下降した。

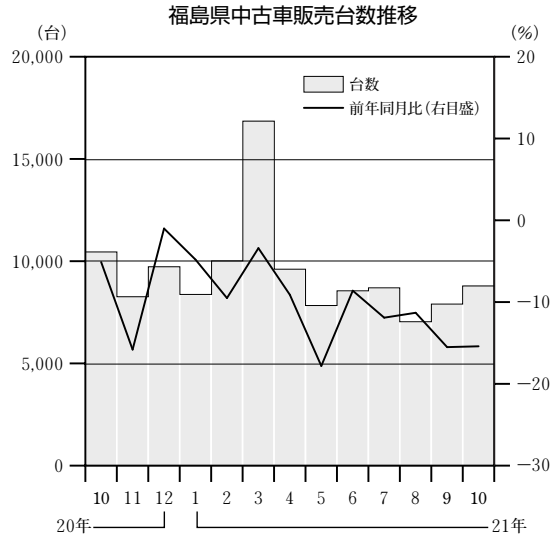
費目別の指数動向をみると、「被服および履物」が106.3（前月比+1.0%）、「家具・家事用品」が94.2（同+0.4%）と2費目で前月比上昇した。一方、「食料」が103.8（同△1.5%）、「教養娯楽」が95.4（同△0.8%）、「保健医療」が98.0（同△0.6%）、「交通・通信」が99.0（同△0.5%）、「住居」が98.8（同△0.4%）、「光熱・水道」が104.0（同△0.2%）などと7費目で前月比下降した。また、「教育」は103.7で前月と同じであった。

家電量販店 10月の売上状況は、パソコン、携帯電話、DVDコーダーなどのデジタル家電類が低調に推移し、洗濯機など白物家電も振るわなかったが、エコポイント効果から薄型テレビ、冷蔵庫が大きく伸び、合計では前年をやや上回り推移した。

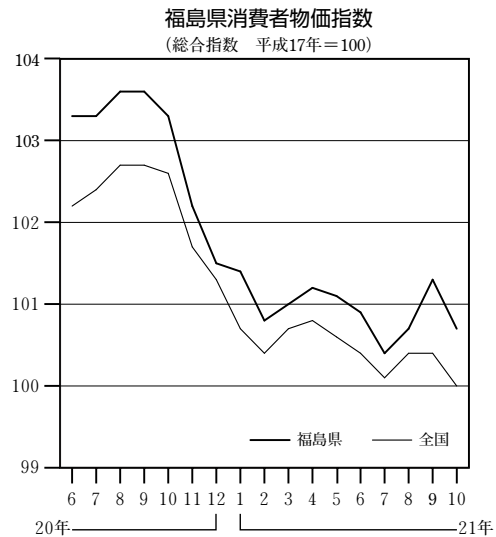
ホームセンター 10月の売上は、日用品、園芸植物、カー・レジャー用品、木材塗料、ペット関連商品などが堅調に推移し、全体では前年をやや上回る水準で推移した。

旅行 10月の旅行取扱額実績は、景気低迷の影響やシルバーウィークの反動などから、国内・海外の個人並びに団体とも、前年を大きく下回り推移した。

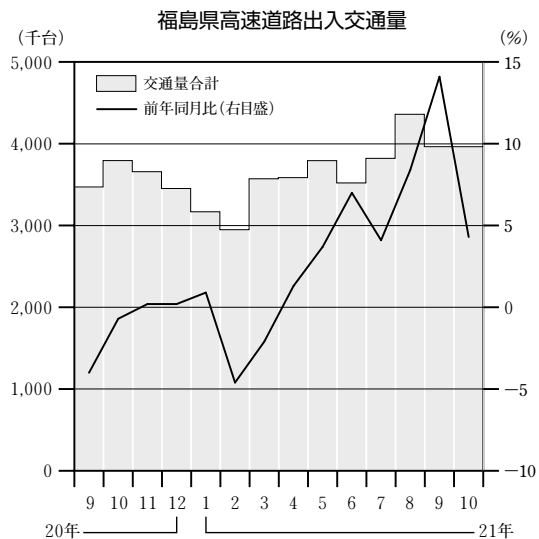
高速道路 10月の県内自動車道出入口台数は、「ETC



(注) 軽自動車は名義変更台数含む
資料：(社)日本自動車販売協会連合会 福島支部
(社)全国軽自動車販売協会連合会



(資料：総務省統計局)



(資料：東日本高速道路(株)東北支社)

割引制度」の効果などから、3,981,509台（前年同月比+4.3%）と7ヵ月連続で前年を上回った。路線別にみると、東北自動車道（白河IC～国見IC）は2,340,039台（同+1.3%）と5ヵ月連続で増加、磐越自動車道（いわき三和IC～郡山東IC）は255,133台（同△4.2%）と7ヵ月ぶりに前年を下回った。磐越自動車道（磐梯熱海IC～西会津IC）は643,170台（同+13.8%）と3ヵ月連続で前年を上回った。常磐自動車道（いわき勿来IC～常磐富岡IC）は743,167台（同+9.7%）と7ヵ月連続で前年を上回った。

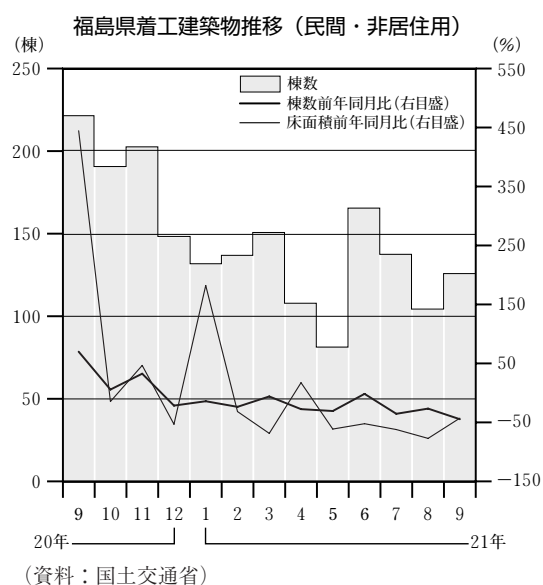
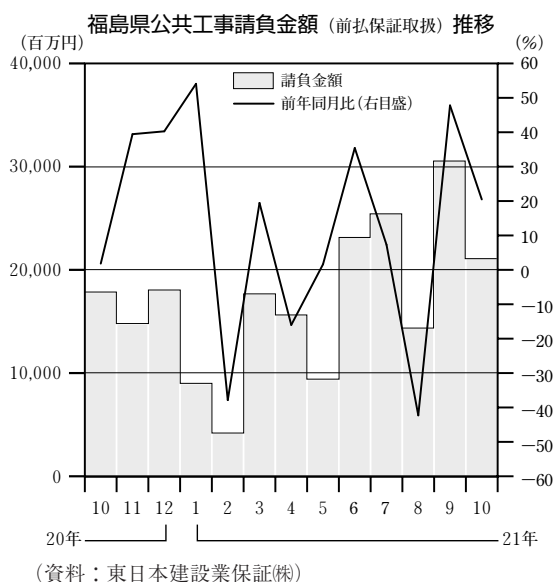
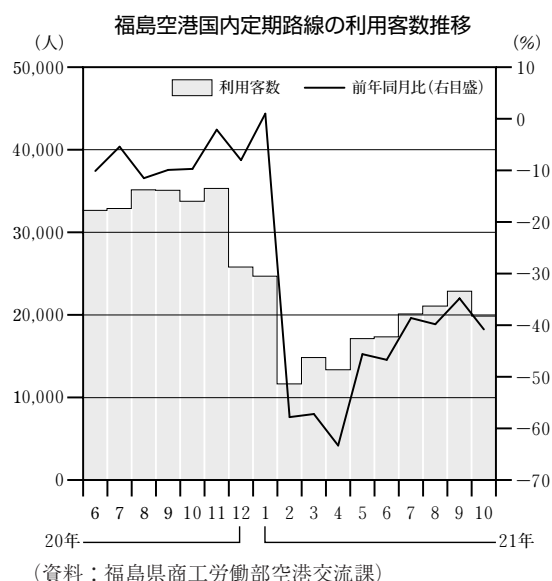
福島空港 10月の福島空港国内定期路線の利用状況は、平成21年1月の日本航空の撤退に伴う大阪（関空発着）・沖縄両路線の廃便により、20,112人（前年同月比△40.8%）と前年を大きく下回った。路線別にみると、札幌便は9,680人（同△3.4%）と12ヵ月連続、大阪便は10,432人（同△39.9%）と22ヵ月連続でそれぞれ前年を下回った。一方、国際定期路線の利用状況は、5,592人（同△27.2%）と12ヵ月連続で前年を下回った。路線別にみるとソウル便は4,398人、上海便は1,194人となっている。

—— 投資動向 ——

公共工事 10月の公共工事前払保証取扱は、件数が837件（前年同月比+5.9%）と8ヵ月連続で前年を上回った。また、請負金額は211億82百万円（同+18.9%）、保証金額は80億47百万円（同+18.8%）となり、それぞれ2ヵ月連続で前年を上回った。

なお、年度累計（2009年4月～10月）では、件数が前年同期比603件増加し、4,489件（前年同期比+15.5%）、請負金額が同67億69百万円増加し、1,396億99百万円（同+5.1%）、保証金額が23億70百万円増加し、525億41百万円（同+4.7%）となっている。

10月の主な発注者別の請負金額は、国が前年比5億85百万円増加し、25億93百万円（同+29.1%）となった。独立行政法人等（東日本高速道路(株)など）は同2億59百万円減少し、3億6百万円（同△45.8%）となった。県は同35億24百万円増加し、99億94百万円（同+54.5%）となった。市町村は同1億82百万円減少し、81億69百万円（同△2.2



%)となった。

設備投資 9月の建築着工（民間・非居住用）は、棟数が127棟（前年同月比△43.0%）と3ヵ月連続で前年を下回った。床面積は50,761㎡（同△41.2%）、工事費予定額は74億30百万円（同△47.7%）となり、それぞれ5ヵ月連続で前年を下回った。

10月の建築物確認件数（計画変更を除く）は、747件（前年同月比△8.1%）と13ヵ月連続で前年を下回った。建築物別にみると、1～3号建物（一定規模以上の建築物が対象）が125件（同△31.3%）、4号建物（小規模な木造・非木造住宅などが対象）が622件（同△1.4%）と、それぞれ13ヵ月連続で前年を下回った。「構造計算適合性判定合格件数」は10件と前月比2件減少し、2ヵ月連続で前月を下回った。

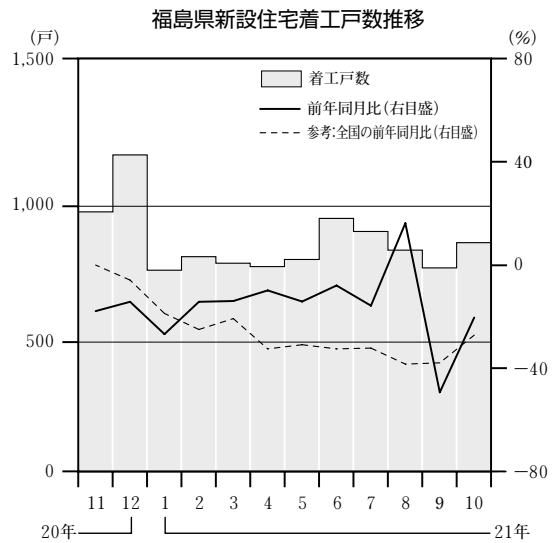
建築物着工の先行指標である10月の建築物申請件数は、744件（同△4.7%）と12ヵ月連続で前年を下回った。建築物別にみると、1～3号建物は124件（同△27.5%）と5ヵ月連続で前年を下回った。4号建物は620件（同+1.6%）と12ヵ月ぶりに前年を上回った。「構造計算適合性判定申請件数」は11件と、前月比1件減少し、2ヵ月ぶりに前月を下回った。

住宅建設 10月の県内新設住宅着工戸数は、835戸（前年同月比△20.3%）と2ヵ月連続で前年を下回った。主な利用関係別にみると、「持家」は442戸（同△16.0%）、「貸家」は333戸（同△32.0%）となり、それぞれ2ヵ月連続で前年を下回った。「分譲住宅」は60戸（同+215.8%）と4ヵ月ぶりに前年を上回った。分譲住宅のうちマンションの着工戸数は、7ヵ月連続でゼロとなっている。

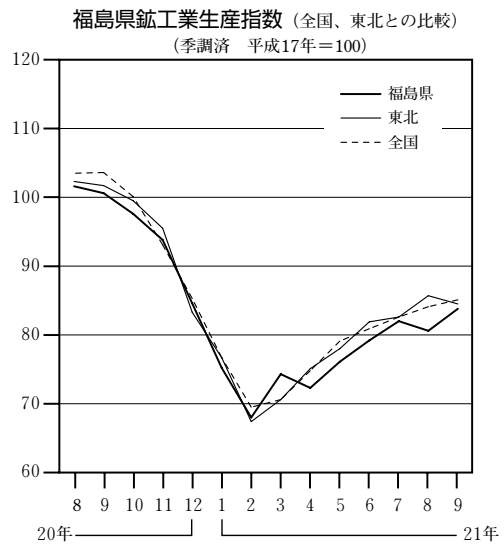
生産活動

鉱工業生産指数 9月の鉱工業生産指数は、季節調整済指数でみると83.8（前月比+4.0%）となり、2ヵ月ぶりに前月を上回った。原指数は88.1（前年同月比△17.6%）となり、14ヵ月連続で前年を下回った。

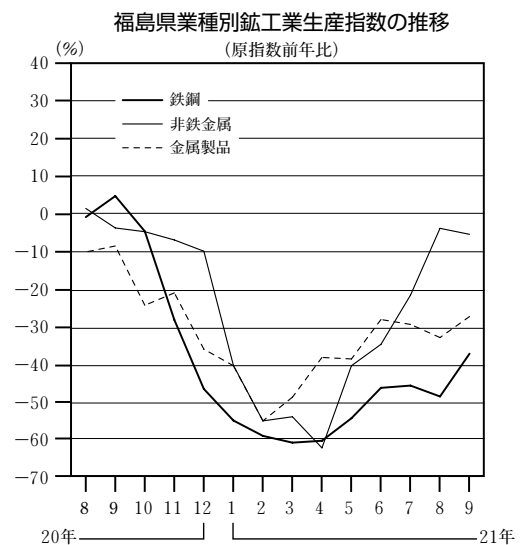
上昇および低下した主な業種別（季節調整済指数）では、電気機械工業で91.4（前月比+30.6%）、鉄鋼業で60.4（同+17.5%）、電子部品・デバイス工業で93.9（同+10.9%）など14業種で



(資料：国土交通省)



(資料：福島県企画調整部統計調査課)



(資料：福島県企画調整部統計調査課)

上昇した。一方、繊維工業で40.9（同△19.0%）、非鉄金属工業で92.0（同△5.1%）、プラスチック製品工業で81.6（同△4.6%）など6業種で下降した。

化学 10月の食品包装フィルム用合成樹脂やフッ素樹脂、金属代替プラスチック、医薬品の生産は好調だったものの、炭素繊維、工業製品（化成ソーダ等）などは前年を下回る水準で推移した。酸化チタン（白色顔料、自動車用塗料向け）の生産は、前年をやや下回り、バリウム化合物（電子部品原料）の生産は、前年並みの水準で推移した。

鉄鋼・金属 10月の伸銅品の生産は、半導体向け電子材はほぼ前年並み、自動車向け端子材は前年を上回る水準で推移した。建機用鋳造品の生産は、国内外向けとも低迷、前年を大幅に下回った。車両用鋳造品は、新幹線、JR 在来線の更新需要および海外需要に支えられ、安定して推移した。船舶用バルブ部品は前年を上回ったが、陸上プラント用バルブ部品は前年を下回る水準で推移した。

輸送用機械 10月の自動車用鋳造品の生産は、海外向けが持ち直してきているが、前年を下回り推移した。自動車用オイルシールの生産は、ハイブリッドカー向けが好調、緩やかながらも持ち直しの動きが続いている。カーナビ・カーオーディオの生産は、前年水準を下回っているものの、持ち直しの動きが続いている。

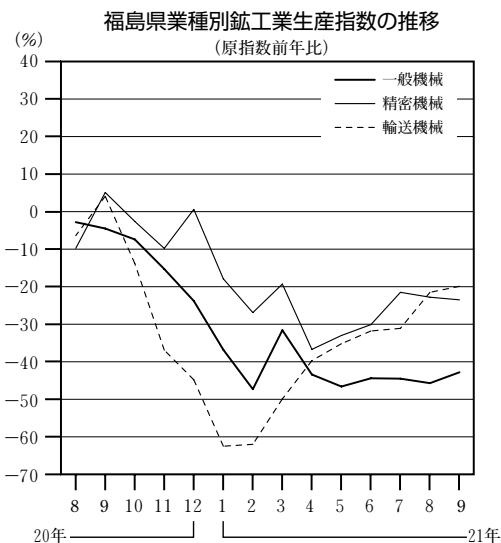
電気機械 10月の変圧器の生産は堅調だったものの、配電盤、電熱炉、自動車モーターの生産が振るわず、前年を下回る水準で推移した。

情報通信機械 10月の携帯電話中継局用マイクロ波通信機器の生産は、主力のインド向けが低調、前年を下回る水準で推移した。衛星通信機器関連、FA 関連機器の生産は、前年並みの水準で推移した。

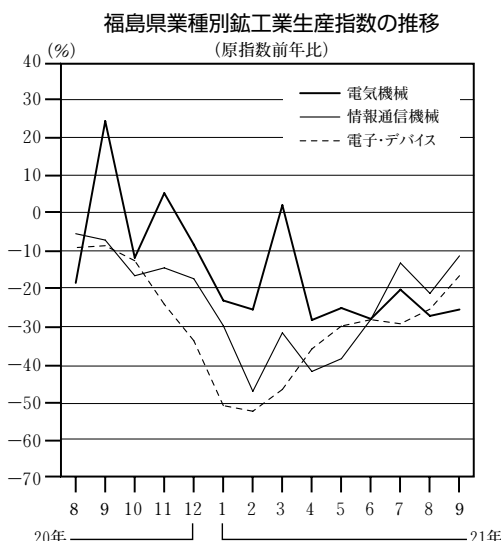
電子部品・デバイス 10月のLSI（大規模集積回路）の生産は、車載品が堅調だったものの、主力のAV・ゲーム機・家電、産業機器を始め、携帯電話、パソコン・OA、通信向けなどが低調に推移し、全体では前年を下回る水準となった。

精密機械 10月の医療用内視鏡の生産は前年を下回る水準で推移した。デジタル一眼レフカメラ用レンズは、回復基調にあるが、前年を下回る水準で推移した。

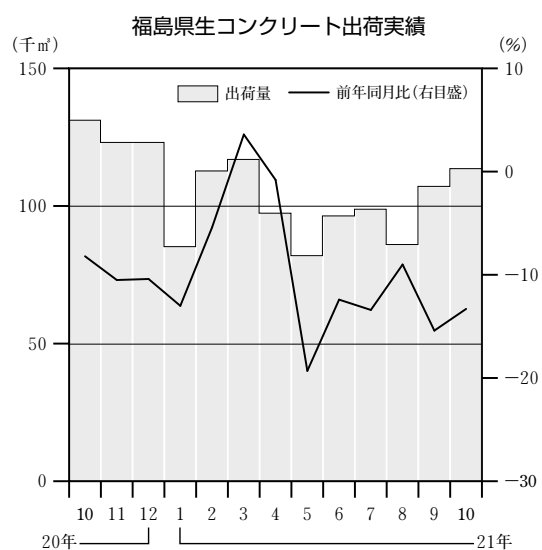
紙・紙加工品 10月の段ボールの生産は、IT



(資料：福島県企画調整部統計調査課)



(資料：福島県企画調整部統計調査課)



(資料：福島県生コンクリート工業組合)

製品向けが低迷、前年を下回る水準で推移した。また、感熱紙の生産は前年並み、インクジェット紙、ノーカーボン紙の生産は、前年をやや下回る水準で推移した。

窯業・土石 10月の生コンクリート出荷量は、全体で114,322^m（前年同月比△13.3%）と7ヵ月連続で前年を下回った。増加地区についてみると、官公需では、会津地区で国道改装工事、相双地区で海岸保全施設工事、白河地区で県道整備工事により、民需では相双地区で高速道路建設工事、原発改修工事等により増加した。

清酒 10月の清酒移出数量は、1,404kl（前年同月比△9.6%）と13ヵ月連続で前年を下回った。タイプ別では、特定名称酒（吟醸酒・純米酒・本醸造酒）が438kl（同△10.2%）と7ヵ月連続で前年を下回った。一般酒（特定名称酒以外の酒）は、966kl（同△9.3%）と13ヵ月連続で前年を下回った。

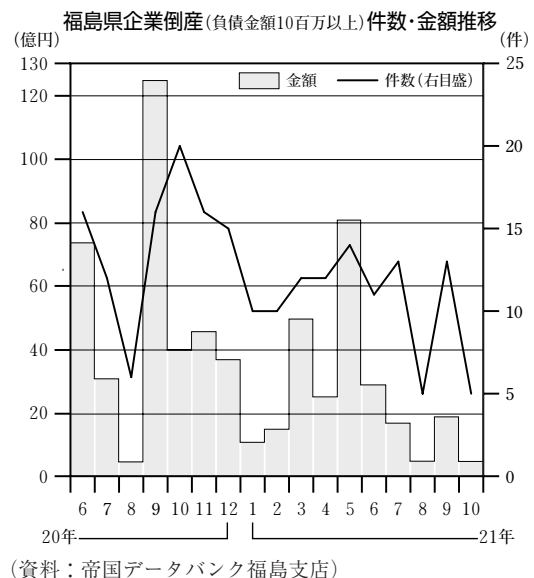
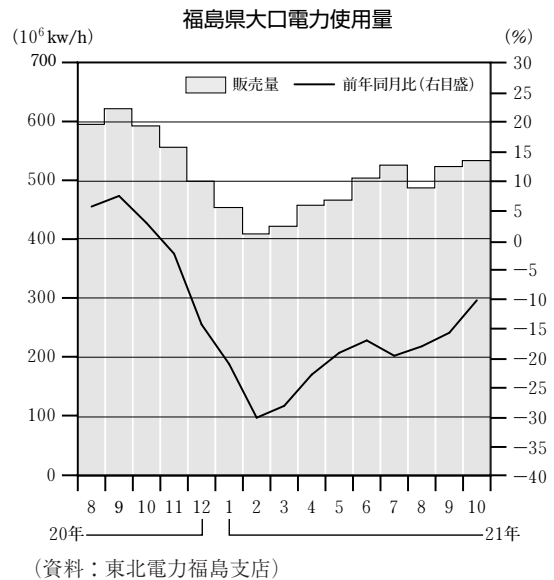
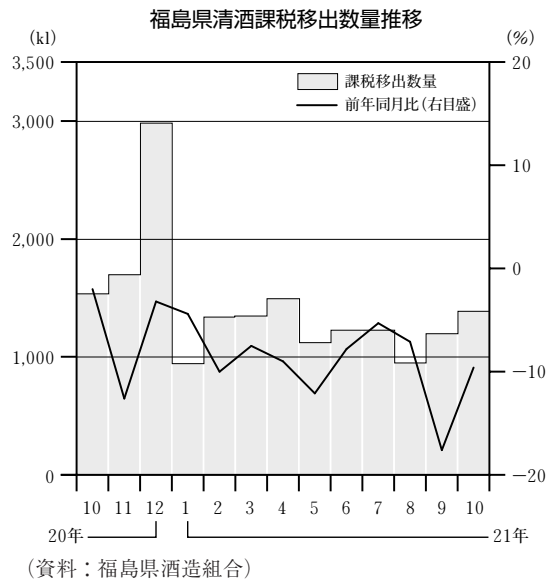
化合繊維物 10月のナイロンの生産はダウンジャケット（表地）向けを中心に、前年を下回る水準で推移した。ポリエステルも、紳士服、婦人服の裏地向けを中心に、前年を下回る水準で推移した。

ニット 10月のニットの生産は、冬物生産がピークを迎えているが、国内需要の低迷から、受注・生産は低調な水準で推移した。

大口電力 10月の大口電力販売量は、536百万kw/h（前年同月比△10.2%）と12ヵ月連続で前年を下回った。大口主要販売先を業種別にみると、「非鉄金属」で118百万kw/h（同△1.6%）、「電気機械」で112百万kw/h（前年同月比△12.2%）、「化学」で59百万kw/h（同△5.8%）、「輸送用機械」で50百万kw/h（同△18.5%）、「一般機械」で23百万kw/h（同△25.0%）、「紙・パルプ」で18百万kw/h（同△27.6%）となり、それぞれ前年を下回った。

—— 企業倒産 ——

企業倒産 10月の企業倒産（負債金額10百万円以上）は、倒産件数が5件（前年同月比△75.0%）となり、3ヵ月連続で前年を下回った。負債総額は4億54百万円（同△88.8%）となり、2ヵ月



連続で前年を下回った。

なお、年間累計（2009年1月～10月）では、倒産件数が前年同期比39件減少し、105件（前年同期比△27.1%）、負債金額が同447億90百万円減少し、256億97百万円（同△63.5%）となっている。

10月の倒産主因別内訳は、5件全てが受注・販売不振、業界不振など不況型倒産であった。業種別内訳は、建設業が3件、小売業が1件、サービス業が1件となった。また、地区別内訳は、県北が3件、県南が1件、会津が1件となり、浜通りはゼロであった。

金融動向

資金需要 県内金融機関（全国銀行、第二地銀、信用金庫、信用組合の県内店舗分）の10月末の預金残高は、6兆4,180億円（前年同月比+3.0%）と32ヵ月連続で前年を上回った。また、貸出金残高は、3兆8,650億円（同+1.1%）と16ヵ月連続で前年を上回った。

保証協会 10月の保証承諾は、件数が1,065件（前年同月比△24.7%）、保証金額が108億85百万円（同△26.0%）となり、それぞれ2ヵ月連続で前年を下回った。一方、代位弁済は、件数が76件（同△45.7%）、金額が8億45百万円（同△11.4%）と、それぞれ4ヵ月連続で前年を下回った。

雇用動向

雇用動向 10月の新規求人数（原数値）は、8,328人（前年同月比△18.0%）と24ヵ月連続で前年を下回った。一方、新規求職申込件数（原数値）は、11,723件（同+10.8%）と14ヵ月連続で前年を上回った。

新規求人倍率（季節調整済、パート含）は、0.64倍（前月比△0.03ポイント）と前月を下回った。原数値は0.71倍（前年同月比△0.25㊦）と24ヵ月連続で前年を下回った。有効求人倍率（季節調整済、パート含）は、0.33倍（前月比±0㊦）となり、昭和38年1月の統計開始以来過去最低の水準で推移している。原数値は0.36倍（前年同月比△0.31㊦）と24ヵ月連続で前年を下回った。

